



▲市防災対策課と防災について協議



▲静岡県袋井市にある津波避難施設「湊命山」を視察

地域の話題

中山校区

安心して暮らせる地域づくり

風光明媚な海と海岸線、広がる保安林の緑と広大な農地。恵まれた自然環境を持つ中山校区「コミュニティ協議会から防災の取り組みについてお便りが届きました。」

安心・安全に暮らせる地域を

東日本大震災発生以降に改定した「中山校区まちづくり推進計画」では、基本方針に**安心・安全に暮らせる地域づくり**を掲げ、校区、中山・小中山自治会を中心に地域の防災意識の向上をめざし活動しています。

校区が抱える不安とは？

田原市から発表されている南海トラフ地震などの被害想定によると、高さ3m～4mの津波が約45分で襲来。校区北側に位置する小中山地区の集落のほとんどが浸水する予測となっています。現在、市が指定する小中山住民の地震災害避難場所は中山小学校運動場ですが、そこまで避難するためには河川を越える必要があります。

地域発!

す。また、避難場所へ向かう避難路が、揺れや液状化による損傷、津波による浸水などにより絶たれ、避難できないことも懸念されています。

小中山地区には高台として小中山保育園の立体駐車場がありますが、収容人数約600名で、約2300名の全地区住民を避難させることができないため、近くに一時避難できる場所の整備を市に要望していました。

校区民の安心のため

こうした背景の中、校区協議会役員会で協議を重ねてきました。市防災対策課からの助言もあり、昨年10月、静岡県袋井市にある津波避難施設「湊命山」



「山」を視察しました。命山のある地区は海岸からおおむね1kmに位置し、津波被害の危険性の高い地域です。地域住民の危機感をきっかけに、避難施設などの検討・要望により、施設建設に至ったとのことでした。

避難マウンド実現のため地域でも

中山校区においても、地域住民、各種委員、関係者を中心に「マウンド建設検討委員会」を設置し、地域住民に安心を与えられる避難マウンドの建設実現に向けて協議検討を進めています。実現には田原市および地域住民の理解が必要不可欠になります。皆さん、ぜひ、ご協力ください。



▲視察した袋井市の「湊命山」全体図